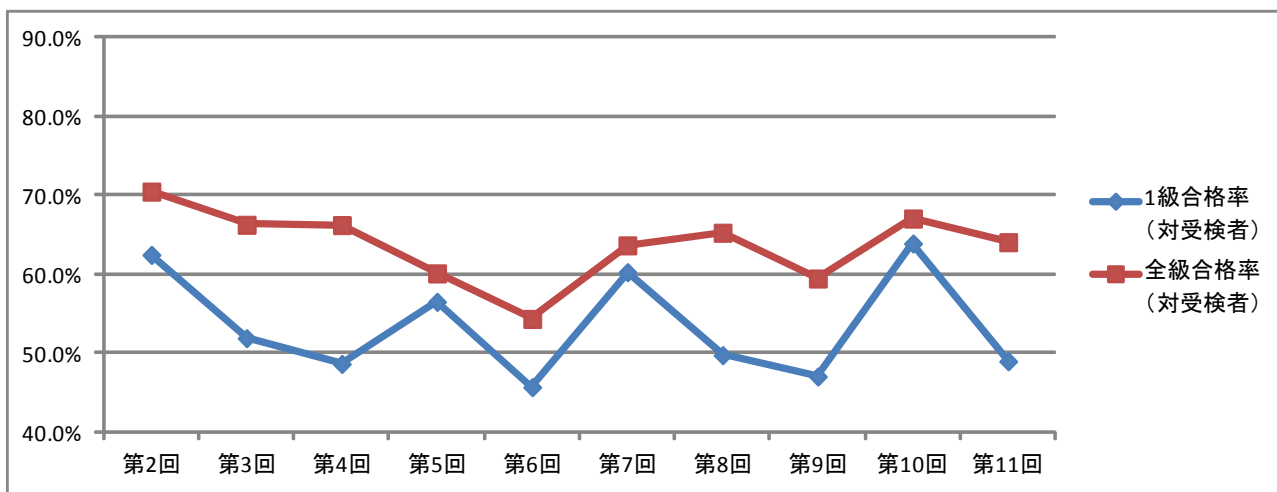


1 級

【3】1 級の傾向とアドバイス

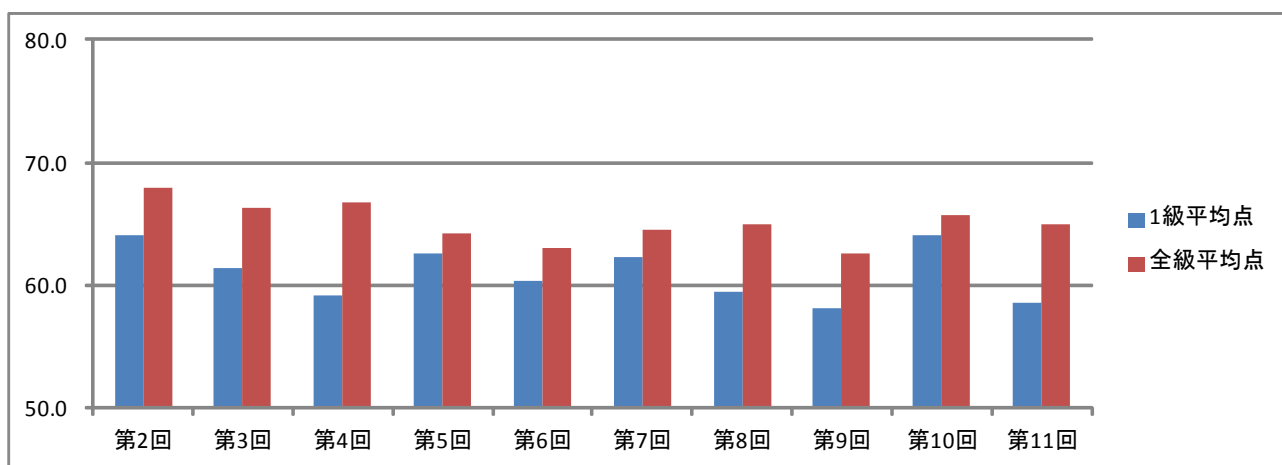
1 級は、幅広い視野の中で全体最適・長期思考・改革志向が求められる管理者層が主な対象です。そのため、例年、合格率、平均点ともに他の級よりも低く、難易度が高くなっています。第 10 回は 63.9% といつかつてないほどの高い合格率でしたが、第 11 回は 49.0% となり再び 50.0% を割ってしまいました。第 11 回が残念な結果に終わった方、そしてこれから新しく受検される方は、ぜひ本書を参考にし第 12 回の合格をめざしていただきたいものです。

● 1 級の合格率<未認定者含む、第 1 回は 1 級と 2 級未実施>



1級	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回
申込者数	24	77	124	150	252	161	216	160	257	157
受検者数	24	77	115	145	247	156	205	155	244	153
合格者数	15	40	56	82	113	94	102	73	156	75
合格率 (対受検者)	62.5%	51.9%	48.7%	56.6%	45.7%	60.3%	49.8%	47.1%	63.9%	49.0%

● 1 級の平均点<第 1 回は 1 級と 2 級未実施>



	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	第11回
1級平均点	64.0	61.4	59.1	62.6	60.3	62.3	59.5	58.1	64.0	58.6
全級平均点	67.9	66.3	66.8	64.2	63.0	64.5	65.0	62.6	65.7	64.9

■出題方針・内容・配点

1級だけでなく全級に共通していえることですが、生産マイスター検定では、奇を衒った問題や重箱の隅をつついたような問題はありません。あくまでも、皆さんが基本テキストをきちんと学習しているか、本質的に理解しているか、そして日々の現場で活用しているかに重きを置いた基本的な問題および発展性を持たせた問題ばかりです。

例えば、『販売計画の立案に関して適切なものを選びなさい』や『能力差異による機会損失金額の計算』、『抜き取り検査(AQL)の計算』、『SCM・生産管理の今後の課題に関して適切なものを選びなさい』のような問題は、通信教育テキストをきちんと学習し理解すれば、解答できる内容のものです。もちろん、多肢選択、語群選択、計算問題、ミニケース問題等のように、問題形式によって難易度や配点が変わりますが、受検に合わせ、日ごろの業務に結びつけた学習を進めていただきたいと思います。

特に、「役割」は管理者である皆さんが毎日当たり前を考え行動しているマネジメントそのものです。この機会を利用して日ごろの考えや行動・判断を整理したり確認する場だと思って学習してください。

単位	出題内容
<第1単位テキスト> ■役割	<ul style="list-style-type: none"> ・経営志向領域、マネジメントサイクル管理力 ・機能組織が適する事業の特性 ・日本の経営風土特性、管理者としての適性 ・管理者の役割と行動
<第2単位テキスト> ■コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・工場業績の見方の計算、機会ロスとコストリダクション、コストマネジメント活動のための情報提供体制 ・売上差異分析の計算 ・設計変更ロスとコスト面から見た設計部門の特性、設計段階におけるコストマネジメント ・コストリダクションとコスト変動の認識、工数削減と効果(稼働率向上効果予想の計算、部分成果と全体成果、効果の予想方法)
<第3単位テキスト> ■品質	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客と出費限度 ・工程能力指数、管理図の見方、抜き取り検査(AQL)の計算、実験計画法、信頼性管理のポイント ・行動科学の教訓(X理論・Y理論)、標準化と規格化 ・品質リスクマネジメントの実践(リスク分析に適用する手法)
<第4単位テキスト> ■納期・生産管理	<ul style="list-style-type: none"> ・投資価値と採算性評価、キャッシュコンバージョンサイクルの計算 ・販売計画の立案方法、需要予測の手順、在庫計画、生産計画と統制(計画管理と進捗管理) ・サプライチェーンの範囲、サプライチェーンマネジメント(SCM)の必要性、ブルウィップ効果、SCMの対象と課題、SCMのメリット、SCMと情報システム、SCM・生産管理の今後の課題
■安全・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理の効果的な進め方、労働安全衛生マネジメントシステムの特徴と導入メリット、安全活動の主要素 ・環境と経営(QCD改善)の両立、MFCA、LCA、環境効率

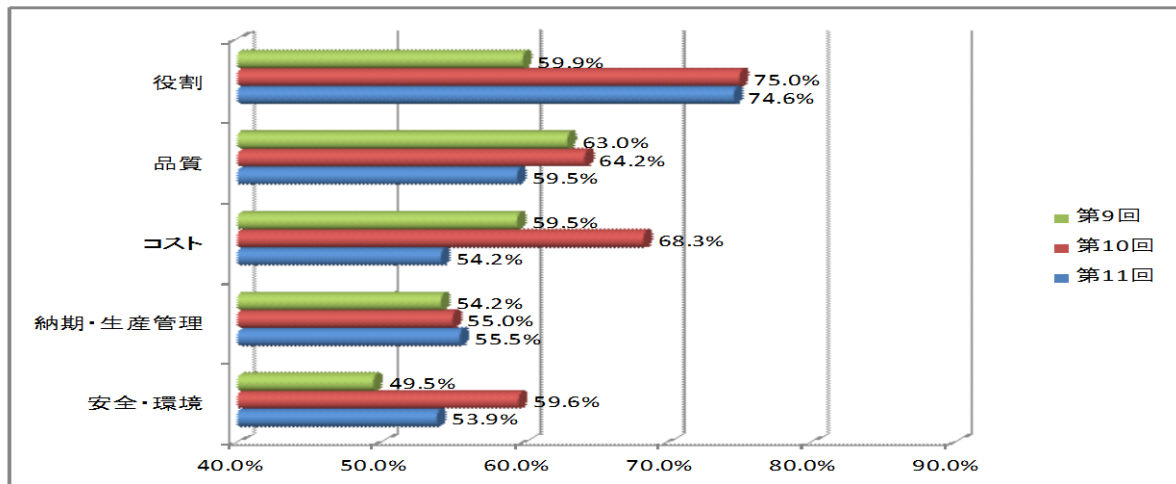
分野	問題数	配点
■役割	8	16
■品質	9	16
■コスト	14	34
■納期・生産管理	11	23
■安全・環境	8	11
計	50	100

■正答率と弱点項目

第10回に比べ第11回の合格率が下がったことと連動して、「役割」以外の分野は芳しくありません。

特筆すべきは、管理者である皆さんにとって必須の知識であるキャッシュコンバージョンサイクルが、直近5回とも正答率30%程度になっている点です。

キャッシュフロー、キャッシュコンバージョンサイクルの改善・改革の視点である「情報の流れの改革、ものの流れの改革、お金の流れの改革、情報・もの・お金の流れにかかわる全体システムの構築（SCMの実現）」を活用し、自社の状況を鑑みて改善・改革を検討することは管理者必須の役割です。その「検討する際のモノサシ」であるキャッシュコンバージョンサイクルを理解していなければ、大きな改革はできないはずで。簡単にいえば、「材料購入⇒人を雇い生産する⇒顧客へ販売」、すなわち「材料購入や給与といったキャッシュの支払い」、「回収されるまでは、在庫や売掛金として資金が寝た状態であること」を正確に把握し、経営上の観点から、売上金の回収を早め、在庫削減、リードタイムの短縮に適切に対処して、企業競争力を高めることが、皆さんの大きな役割です。下記の図表を参考にして、理解を深めてください。



分野	弱点項目
■役割	※弱点項目は、特になし
■品質	・管理図の見方(異常状態判定の着眼点)
■コスト	・能力差異による機会損失金額の計算 ・設計変更ロスとコスト面から見た設計部門の特性、設計段階におけるコストマネジメント ・コストリダクションとコスト変動の認識、工数削減と効果
■納期・生産管理	・キャッシュコンバージョンサイクルの計算 $\text{売上債権回転日数} = \frac{\text{売上債権額}}{\text{売上高}} \times 365\text{日}$ $\text{棚卸資産回転日数} = \frac{\text{棚卸資産額}}{\text{売上原価}} \times 365\text{日}$ $\text{仕入債務回転日数} = \frac{\text{平均仕入債務額}}{\text{売上原価}} \times 365\text{日}$ キャッシュコンバージョンサイクルは、売上債権回転日数+棚卸資産回転日数-仕入債務回転日数 ・販売計画の立案方法、需要予測の手順
■安全・環境	・安全管理の効果的な進め方 ・環境と経営(QCD改善)の両立